

# レビューのコツは “なんでやねん!?”

## レビュー眼

### アンケート結果レポート

#### JaSST Kansai 実行委員会

かど:どもども、JaSST Kansai 実行委員のかどやんです。

にい:みなさん、こん XX わ。同じく JaSST Kansai 実行委員の、にーみです。

かど:先日の JaSST' 10 Tokyo では、大変お世話になりました。ご支援いただいた方々 ならびに、セッションへ参加された皆様、会場運営にあられた皆様へ、JaSST Kansai 実行委員を代表して、改めて御礼申し上げます。

かど&にい:ありがとうございました。

かど:で、アンケートもたくさん頂きましたねー。138 名分ですか。

にい:そうですね。たんまり頂きました。

ラジオ番組風に、レビュー眼セッションの振り返りと、アンケート結果の報告をさせていただきますか。

かど:はい。まず、参加目的ですね。(図1参照)

業務改善・品質向上を目的とされた方が、44%。

個人のスキルアップを目的とされた方が、38%。

テスト技術動向チェックが 12%となっています。

にい:続いて、参加したきっかけです。(図2参照)

レビューに興味があったが、65%

内容が面白そうだったが、32%

その他は、3%です。

かど:レビューによる業務改善・品質向上や、スキルアップを目的に参加された方が多い傾向が見受けられます。

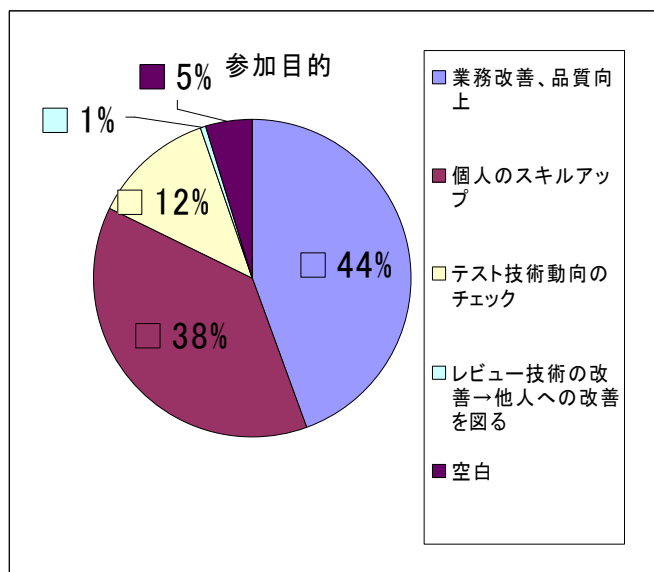


図 1.参加目的別集計

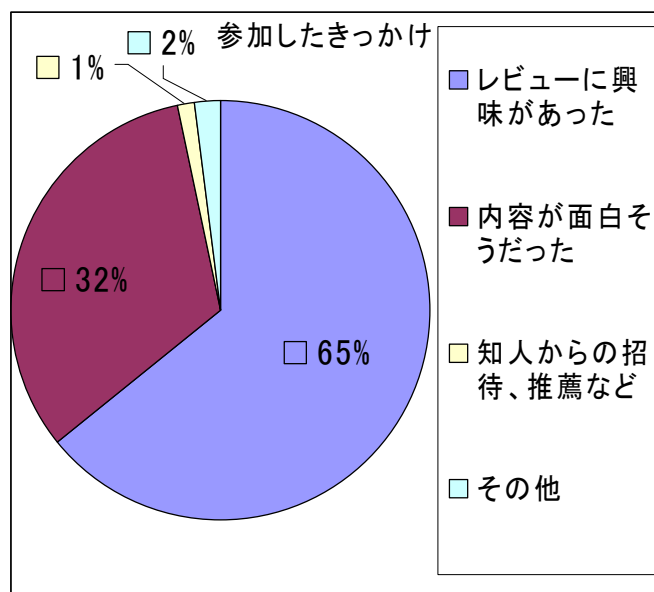


図 2.参加したきっかけの集計

かど:続いて、感想の集計結果です。(図3参照)

期待以上が、45%

期待通りが、46%

期待不足が、5%でした。

にい:約91%の方に、有意義だと感じていただけたようで、良かったです。ありがとうございます。

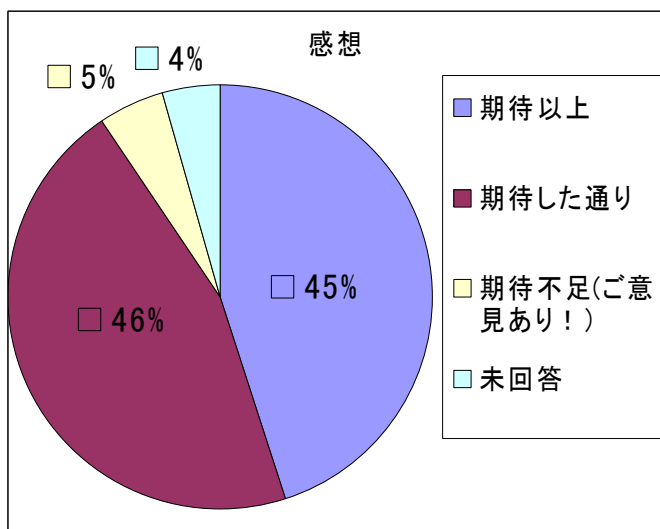


図3.感想の集計

かど:「期待不足」で回答頂いた方も、わざわざコメントを頂き、ありがとうございます。ご意見を踏まえて、今後の改善に結びつけていきます。

にい:さて。みなさんに頂いたコメントを読んでいると、皆さん、現場で「レビュー眼」を活用いただく意気込みを感じますね。

かど:おー、それはすごいですね。

ぜひ、パーソナルスキルを磨いて、仕事が楽になれば、うれしいですね。

にい:なんか、質問も頂いていますよ。

えーと、なににに。。

質問:「“思い込み”と、“レビューアとして価値観を持つ”は、どう違うのでしょうか。レビューアの価値観が思い込みだったら??」  
「先入観を無くす方法とは?」  
「先入観を取り除くには?」

かど:なかなか、鋭い質問ですね。

にい:確かに。私も知りたい。

かど:私も知りたい。

と、いうのはさておき、ある書籍では「多面的に情報を捕らえること」が、先入観を無くすコツだそうです。たとえば、A新聞では一面トップの記事が、Y新聞では取り上げられなかったりします。ひとつの情報に頼るのではなく、多角的に情報を集めたり、観察することで、物事には色々な考え方があることに気付くと思います。

もうひとつ例をあげると、車で車線変更をするとき、バックミラーだけでは死角があるので、サイドミラーも見ますよね? 観点にも、死角があることを認識して、別の観点も組み合わせて、物事を確認するような癖をつけておくと、良いかと思います。

にい:なるほど。さっそく、実践してみますか。で、次の質問です。

質問:「レビュー眼を養うには、具体的にどうすればよいか、なんとなくわかってても難しい」

かど:うーん、難しい質問ですね。

私自身の経験ですが、できる範囲からで良いので、何か観点を1つ立てて、仕様をとことん吟味してみても如何でしょうか?

方程式の使い方を覚えるのに、計算ドリルでくり返し演習を行ったように、レビュー眼の「型」も、場数を増やすことで、自然に身に付くと思います。

何よりも、「見直す」という癖をつけることで、新しい

発想を得たり、気づくこともあるので、じっくり一つの課題に取り組むのも良いと思います。

にい:なるほど。

で、次の質問です。

かど:はい、どーぞ。

**質問:「テストや品質についてもっと経験をつみたいが、現在の会社では限界を感じた場合、そこから抜け出すにはどうすればよいか」**

かど:これは、ヘヴィな質問ですね。

にい:何か、あったのでしょうか??

かど:環境か、お仕事の内容なのか、どの部分に限界があるのかわかりませんが、JaSST 以外にも、TEF のオフ会や、各種勉強会があるようですね。(公開されている発表資料の末尾に、コミュニティのご紹介があります)

交流の場を広げ、共に学ぶ仲間を作ることで、いつか天元突破できると思います。

にい:(天元突破??)

次の質問です。

**質問:「レビュー指摘事項で、反映されないものが増える、という事象。少しでも多く反映してもらうためにはどうすればよいか。」**

にい:うーん、重要性を、合わせて伝えていますかねえ?

それを対策しない場合、どういったリスクがあるとか、お客様に影響があるとか。リスクを伝えた上で不採用と判定された場合、納得がいかないとしても、リスクを低減させたり、何らかのアプローチがあるのではないのでしょうか?

かど:回答期限を、明確に決めておくのも大事ですねえ。

にい:同感です。

**質問:「エラー推測のマインドマップを、もう一度見たい」**

かど:残念ながら、公開予定は無いのです。すみません。

にい:これは、自分たちで作ったものでないと、本当に使えるものにならないという意図があるためです。

作成方法については各コミュニティで応援しますので、がんばって自分たちで作ってみてください。

(公開されている発表資料の末尾に、コミュニティのご紹介があります)

かど:抽象化のコツについてですが、ある書籍では、「物事の本質を捉えること。」とあります。たとえば、共通点や類似性を見つけ出して、分類してみるとか。

あまり細かい説明はできませんが、共通点や類似性を発見するような発想が大切だと思います。

にい:まだまだ質問がありますけど、いいですか?

かど:いいですよ。

**質問:「定形型とエラー推測の使い分けがいまいちわからない」**

かど:定型連想は、何かのパターンと比較するので、「抜け・誤り」の発見に役立ちます。エラー推測は、リスクの発見に有効です。

また、定型連想の、テスト設計定石の「異常」が、エラー推測に該当します。「さあ、異常ケースをたくさん考えて下さい!」となった場合、知識や経験から異常ケースを検討しますよね?ここが「エラー推測」になると考えます。蓄積したエラー情報を再利用することで、漏れなく異常ケースの検討がしやすくなると思います。

公開されている発表資料の末尾に、参考となる付録を付けましたので、合わせて確認してください。

**質問:「発想できる人と発想できない人の違いは？  
(発想できる人には、なぜできないのか理解  
できないので、何をおしえていいかわからな  
い)」**

かど:うーん、難しい質問ですね。

にい:学習塾の先生だと、答えられそうですね。

かど:たとえば、図形を組み合わせるパズルを解く際、図形を回転させたり、並び変えたりしますよね？対象の方がパズルに行き詰っている場合、どういうヒントを与えますか？「場所(ポイント)」「回転/並び変え(テクニック)」等ではないでしょうか？

対象とされている方は、単純にテクニックや、使う場面を知らないだけかも知れません。ヒントを与えれば、自力でもパズルを解けるようになると思います。

後は、思考の癖というか、個性もありますので、得意な部分を伸ばして自信をつけて頂くのも良いかと思えます。逆に、苦手な部分は、観点を一言フレーズでまとめて、メモを持ち歩くと良いのではないのでしょうか？

**質問:「別の機会に発表するといっていた内容についてきてみたい。」(公開されている発表資料の20頁)**

かど:それ・は！

秘密。

にい:えー!?何も考えてないだけじゃないの？

かど:(うっ、鋭い)

えーっと、「過去の失敗から学んだ教訓」を活かして、不具合の作りこみを予防するようなアドバイスを、レビュー実施時点でできるようになれば嬉しいなーという考えです。

にい:なるほど。

かど:よく、教訓を導き出すのに「なぜなぜ分析」とか「5回なぜ？」が有効だと言われていますね。

でも、とても難しい内容なので、別の機会に触れてみたいと思います。

にい:これは、私からの質問ですが。

実際、JaSST' 10 Tokyo でのセッションは楽しかったですか？

かど:楽しかったですねー。また、機会があれば、発表の機会を頂きたいと思います。

にーみさんは、どうでしたか？

にい:楽しかったですねえ。

実は、ライトニングトークスには常連なのですが、今回は無人でエントリーをしてみました。

かど:おお！すごい。で、どうだったのですか？？

にい:作成した映像は、未公開のまま、お蔵入りです。

かど:勿体ない。一度、見てみたいなー。

にい:ここにアクセスすれば見えますが、音声が出るので注意してくださいね。

<http://www.youtube.com/watch?v=1sD3XgGG-sM>

かど:……。 (これは、すごい！)

にい:晒し age ですが、みなさんもどーぞ。

かど:えーと、本題に戻りまして。

今回のセッションでは、「レビュー」という、なんとも難しい職人芸のようで暗黙的なノウハウを一般化する方法について、考察を述べさせて頂きました。

にーみ:まだまだ、ブラッシュアップは必要だと考えます。特に、実技応用的な部分について。

これからもみなさんと一緒に、テスト技術者としてのスキル向上への取り組みを図っていきたいと思います。

かど&にーみ:

また、皆さんと会える機会を楽しみにしています。  
ありがとうございました。(´^`)/~  
是非、JaSST 関西にも来てくださいねー。

—以 上—

注) 当資料を参考としたことによる、如何なる損害・被害に、責任は持ちません。悪しからず、ご了承ください。